

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590600082		
法人名	医療法人 芙蓉会		
事業所名	グループホームクローバー(ひだまりユニット・そよかぜユニット)		
所在地	滋賀県草津市上笠4丁目24番19号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和4年12月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、2ユニットを重度入居者様と軽度入居者様で分かれております。重度の方々でも、身の回りの全般的な介助は必要となるのですが、不活発にならないように、利用者様のペースに合わせ、介助で体を動かしたり、座位姿勢や臥床姿勢に注意し、見た目からも生き生きと生活して頂けるよう、努めております。又、健康面への対策として、感染源を『持ち込まない』を指標とし、利用者様が健康で過ごせるよう努めています。万が一の場合も、連携医療機関へすぐかけられるよう手配し、医療機関への密な報告をし、早期発見に努めています。18名の利用者様一人一人の特徴を生かし、利用者様ご本人の思いも尊重した個別ケアを、職員全員で提供できるよう話し合っ、支援させて頂いております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームクローバー」は病院や老健、特養等を複数総合的に運営されている中の一ヶ所である。法人全体で職員の教育、サービス向上のための委員会、防災、職員の厚生(サークル活動)等お互いに協力関係にあり、高め合うことが出来ている。各施設の良いところを取入れよりサービス向上を目指して、利用者となじみの関係を崩さない程度の緩やかな人事異動がある。コロナ禍で利用者地域との交流は出来にくい状況であったが管理者・職員は、地域包括支援センターと共に認知症についての啓発活動を行い地域との繋がりに努め、コロナ収束後の交流を模索している。職員は、利用者、一人ひとりの心身に向き合い、課題を共有しながら出来る力を活かした自立(律)支援に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を玄関に掲示し、地域交流や利用者様の人格尊重・自立支援を掲げた事業所理念は、事務所内の職員の目に触れる所に掲示。事例検討の場合は、利用者様本位に立った理念で、支援内容の検討が行えるようにしている。	全職員は、組織の一員として理念に沿った共有・実践・ステップアップに努めている。定期的に振り返りのアンケートを行い評価して行きたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	主に運営推進会議で情報交換を行っており、地域の方にはボランティアとして事業所の行事に毎年来ていただき、交流もしている。しかし、コロナ過の今年は、外部の立ち入りをお断りしている。	コロナ禍にあり利用者や地域住民との交流は殆ど出来なかったが自治会代表を通じて防災の話し合いをしたり、管理者・職員は地域の高齢者の集まりに出向き認知症の勉強会や相談に積極的に関わり、今後の交流に繋がるように努めている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方の事業所連絡や認知症介護について相談を受けることもある。市の担当者の委託で「認知症なんでも相談所」の看板を設置を予定し、地域の方に気軽に相談出来る体制を、と考えているが今の所事例なし。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーを構成し、2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、活動報告や、リスク管理等情報交換を行っている。しかし、コロナ過の今年は書面でのやりとりとさせて頂いている。	コロナ感染防止のため書面会議とし、議事録(事業所の現状や取り組みの報告)を自治会代表・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員に送付しているが意見交換まで至ってないため検討中である。	報告だけでなく課題についても直接意見交換する機会があればいいですね。出来るだけ直接手渡したり、電話で伺うということも検討されてはいいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で地域包括支援センター職員と情報交換したり、介護保険課職員が出席している市のグループホームとの会議で実情を伝え、連携できることを話し合っている。その他、介護保険関係の報告等もこまめに行っている。	介護保険関連の相談や事業所の現状報告をし連携を取り合っている。地域の老人会に市職員・地域包括支援センターの職員と認知症の理解について啓発活動に出向く等協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で利用者様の尊厳が守られた支援が出来ているか検討したり、勉強会を開催し、職員の知識の共通理解を図っている。玄関の開錠は、施設前の小学校開校以降交通の安全が確保出来ない為、行っていない。	法人グループで勉強会をして身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。夜間帯以外は施錠しないように努めている。日々の暮らしのケアでスピーチロックにつながる対応になっていないか確認し振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で集約され、虐待に繋がる可能性が考えられる対応がないかを検証している。事業所管理者が職員への啓発や指導を行っている。対応が不適切な職員へは、管理者が個別で指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方がおらず、テキストや施設内の勉強会や法人内の研究発表会で学んでいる。利用者様のご家族様から相談があれば、説明や、サポートを行える様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に時間を頂いて説明し、不明な点があればその都度確認して頂ける様に時間を設けている。その上で、署名、捺印をして頂いている。重要事項等説明書に関しても同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見を受けた職員から、職員同士で共有し、早急に対応を心掛けている。検討する事柄は管理者に報告相談し、改善に努める。家族様へは、来訪時や電話等で上記の様な対応をさせて頂いている。	コロナ禍で制限付きの面会となったが、管理者・職員は、短時間でも意識的に意見や要望を伺った。玄関先の面会となり、もっと暮らしの様子が知りたいと要望があり利用者の日々の様子を詳しく伝えるお便りに繋がった経緯がある	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、管理者や事務長が職員の意見を聞き、反映できるよう努力している。会議前には意見を引き出し易くなるよう、議題等張り出している。全職員の意見を聞く場合は、アンケートも実施することもある。	朝、夕の申し送り時や職員会議の中でも職員の意見や提案を出しやすく管理者は、職員の案を前向きに捉え反映に努めていると職員より聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所管理者と法人代表者、他事業所管理者とで、月1回話し合う機会があり、職場環境の改善・条件に配慮している。目標管理表を使い、年度ごとにそれぞれの目標に向けて振り返りと進捗チェックしている。法人全体で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に、年間の施設内勉強会の計画が立てられる。外部研修は掲示しており、自己研鑽という形で参加を募っている。経験に応じた研修を該当の職員に管理者から勧め、それぞれの職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの管理者と小まめに連絡をとりあっている。事業所共通の課題の解決に向けて意見交換したり、事業所訪問や、市内グループホームの広告を共同で取り組んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人様との面談を持ち、不安や、施設に対する希望を把握するよう努めている。本人様が安心して生活出来るケア方針を立てることから支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からの見学から、家族様との時間を取り、傾聴するよう努めている。その上で、施設の理解や利用の戸惑い・不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談の際に入所までに要することで相談があれば、その段階で本人様が家族様に相談に乗り、必要時には担当のケアマネージャーに連絡する様、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と共に過ごす時間を大切に、日常での食事の準備や洗濯などを一緒に行い、また創作活動等楽しさを共有しています。会話や散歩等で関わる時間を増やし、一方の立場からの関わりにならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には適宜利用者様の様子を報告し、来訪された際は、利用者様とゆっくり過ごしていただけるように配慮している。利用者様の様子を毎月のお便りや面会時に直接お話して知って頂きながら、家族の思いを伺う様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の希望が言える方に対しては、電話やFAX等で対応しているが、希望が伝えられない方に対しては、行えていない為、ご家族様には積極的な来訪をお願いする様努めている。	コロナ禍で制限はあったが、遠方に住む子供や孫に電話や手紙で繋がりを大事に支援している。以前からの友人数人が来訪され楽しみにされている方もいる。継続して来ていただけるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット合同での催しで交流を持ち、日頃でもユニットの行き来をされる利用者様が居たり、同じ地域の方同士がお喋りし合う機会がある。1人で行かれない方でも、職員が付き添い、他利用者様と挨拶を交わし、馴染みの関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより利用中止になった場合、職員が面会へ行くとともに、アルバムや色紙を作って、本人様と家族様との関係を大切に、また家族様の相談があるときは傾聴する様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と利用者様とが話をした内容を記録に残し、その言葉や、利用者様の生活全体を知り、思いや意向の把握に努めている。なかなか自分で思いを伝えられない利用者様は発する言葉からその思いを汲み取る様にしている。	職員は、利用者との日々の暮らしの中での何気ない会話や気分の変化を捉え、本人の思いを予測して意識的に把握して職員間で共有し時には家族等にも依頼し本人の思いに沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様や本人様から生活歴から暮らし方までの情報を得る。入居後も、これまでのことも引き出せるように情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の毎日の様子を記録し、職員間で口頭で申し送る他、医療面での情報ノートと生活面の申し送りノートを使って、利用者様の現状把握が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、各利用者様の担当職員と介護計画作成者が話し合っている。家族様の来訪時に意向を聞き、内容を加味したものから、介護計画を作成している。	本人・家族には、面会時や電話で思いや希望を聞き介護計画を作成している。個別の介護記録を参考にして職員間でカンファレンスしてモニタリングし介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様別に毎日記録に残している。気づきがあった場合は、当日の出勤者で話し合い、意見交換をしながら、直ぐ全員に伝達できるようにしてから介護実践に反映。その経過を見て、プランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や病院受診等、家族様と相談のうえで、柔軟に支援させて頂いている。利用者様の生活の質を維持できるよう、家族様には状況の把握をしてもらった上で、必要な福祉用具を薦め、購入までを職員が代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長を通じて案内や、お誘いを頂いているが、今年度はコロナ過の為、町内行事に参加できていない。近隣小学校の児童下校時に、小学校前へ出向き旗立ち当番を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療を月2回受けられている。その他体調が変化あった場合、協力医療機関へ連絡し、指示を受けることや、平日であるならばすぐ受診することも可能。	本人・家族の納得のもと事業所の提携医に通院や往診を利用。認知症専門医は以前からのかかりつけ医に通院、職員が送迎することが多いが場合によっては家族同行をお願いしている。診療情報は関係機関で共有し健康管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回協力医療機関の看護師が来て、健康管理を行っている。介護職は状態変化を看護師に報告し、必要時処置等の指示を仰いでいる。著変あれば看護師から主治医に報告するようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には病棟医師や看護師と連携を図り、スムーズな治療を受けられるようにしている。退院時には相談員と連携し、必要であれば事前カンファレンスを設け、スムーズに退院後の生活を送れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期となった利用者については主治医より家族を含めて話し合うようにしている。入所時に終末期に関する同意書の作成を念頭にはおいているが、実行できていない。この1年では、看取りをさせて頂いた方は2名。	重度化の傾向がある場合は、家族、主治医、事業所が話し合い体制を整え支援に取り組んでいる。法人共有で看取りケアについての勉強会を行っている。夜間の体調変化時は、管理者がオンコールで駆けつけたり2人体制にするなど随時対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、施設内研修にて、急変時の対応を学んでいる。元々の利用者の予測される事態には、予め対応方法を看護師や医師の指示を受けておくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、年に2回(昼夜想定)消火避難訓練を利用者様を交えて実施している。地域の協力を得て、災害時の連絡体制を確保している。また、同系列3施設共有のマニュアルがある。	定期的に防災訓練が行われている。自治会との協力関係体制が築かれている。同法人の施設が連携して災害対策を行っている。	様々な災害を想定した対策が継続して運営推進会議等で話会えればいいですね。家族の意見等も聞く機会があればいいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄、更衣は特に羞恥心の配慮を行っている。お一人ひとりの思いを伺い、尊重するように高い意識を持っている。	入職時に権利擁護の学びを行い、内部研修で接遇の研修に参加して、全員が意識をもって対応をしている。虐待防止のチェックリストや、人事考課のアンケートの中に組み込んでフィードバックする機会を持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別のペースに合わせて支援している。お一人ひとりの思いを傾聴し、出来る限り希望に沿った支援を職員全員が心がけている。利用者様が選択しやすい声掛けをさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れに沿っての生活になりがちであるが、趣味や散歩、入浴時間や午睡などを職員から問いかけ、その答えで臨機応変に対応できるよう職員間で連携を取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみに気を配り、各利用者様がその人らしい姿でいれるように支援している。着尽した衣類などは、ご家族様相談し、新調して頂けるよう適宜お声かけさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回ずつ昼食・おやつ作りをして季節感のあるものや、利用者様の希望に沿ったメニューにし、利用者様と共に作業している。 (コロナ期間中は自粛)	一緒に準備や片付けをすることができなくなった方がほとんどであるが、介助が必要な方にも自分で食べたいと思う気持ちを大切にしながら個々の状況を見極めて声掛け、介助を行っている。今後食べたいものを聞いてテイクアウトを計画していると聞く	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は個別に摂取状況を把握している。嚥下状態に合わせて形態を変更したり、好物や家族様からお預かりしたもの等は、職員が管理の上、個別に提供している。自力摂取が出来るよう、自助具を使用や声掛け、準備をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人ひとりに合った物品を準備し、声掛けや介助で毎食後の口腔ケアを支援している。希望があったり、必要時には、訪問歯科治療を受け、職員ともに指導を受け、支援しています。すぐ相談、対応してもらえるような連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに応じた支援が行えるようにしている。ほとんどの方がパッド等何らかの用具を使用しているが、トイレでの排泄を第一に考え支援している。	介助を要する方が多いが、なるべくトイレでの排泄を援助し、必要な方には二人で介助を行うこともある。チェック表で排尿のパターンを把握し、尿が出ていない方には医療連携を行い対応した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師との連携のもと必要な方は投薬にて調整している。また、排便を促し易い飲食物の準備を設けている。個々の排便の状況を確認、把握できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則入浴日が決まっているが、個々の状況、本人の意思により、曜日・時間の融通はつけられるように配慮している。	週2回の入浴を目安に、午前中に3名ずつ入浴している。重度で浴槽につかれない方にも、暖房をしっかりとってシャワー浴と足浴で体を温め、男性介助者が二人介助で湯船にかかる支援をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態をよく観察し、就寝時間を工夫している。眠れない方には、希望にもよるが冷・温の飲み物を提供したり、話し相手になる支援をさせて頂いている。空調、体位交換にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報はカルテに保管。職員は目を通したり、毎週来訪する調剤薬局の薬剤師により副作用や効能についても理解を深めている。医師や看護師の指示のもと、個々の必要な時間、量で服薬出来る様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることに合わせて、家事や簡単な手作業を行ってもらっている。それぞれの利用者様が何が得意で不得意か、やってみたいことは何か、可能性を試行錯誤して支援させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩は気候や個々の体調に合わせて職員と一緒に出掛けている。家族の来訪のほか、一緒に外出してもらうことを積極的に勧めている。コロナ過の為、回数は減っている。	近隣に住宅が立ち並び、近隣を散歩する機会は減っているが、広い駐車場内を歩いたり、玄関前のベンチに座り外気に触れる機会を作っている。車いすの方もいるが、法人グループの車を借りて、季節のお出かけにも行く予定と聞く。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は原則、事務所で鍵のかかる場所で保管している。買い物に行ける方は職員が同行するが、消耗品や、嗜好品の購入など、ご家族に相談の上、職員が代行することが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、事務所にある電話か子機を使用して頂く。FAX送信や、手紙を出す支援もさせて頂いている。また、現在はzoomを使用した支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、適切な室温、温度管理を行い、快適に過ごして頂いている。季節毎に職員と利用者様とが共同で創作し、完成した作品を玄関やユニット内に掲示している。居室や共用空間をはこまめに清掃を行い、清潔を保っている。	大きな窓から日が入り明るい清潔なリビングで、それぞれの好みに応じて過ごしやすいようにテーブルやソファが配置され、利用者は心地よく過ごしている。室温は利用者の体感に合わせてこまめに管理し、換気も工夫しながら行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置し、利用者様が思い思いに利用して頂いている。また希望に応じて、ウッドデッキのスペースに椅子を運び、外気浴や日光浴をして頂く形で頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様の馴染みのものや写真、椅子等の家具をそれぞれの思いで準備され、居心地の良い空間を作っている。日常使用するコップや箸、茶碗は使い慣れた物を利用して頂いている。	馴染みのテーブルやテレビを持ち込み自分の部屋として居心地よくされている方もいる。ベッドメイキングや、部屋の整頓を自分で行っている方もいる。部屋の温度は個々に合わせて調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が見守りしやすい環境設定している。ユニット内に手すりが設置しており、安全に歩行出来る様にしている。居室を迷わない様に、名札や分かり易い目印をつけ、利用者様が混乱せず行動出来る様に配慮している。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は、コロナ感染防止のため書面会議とし、議事録(事業所の現状や取り組みの報告)を自治会代表・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員に送付し報告としている。	報告だけでなく課題についても、直接意見交換出来る機会を設ける。	運営推進会議議事録を、自治会代表・民生委員・市職員・地域包括支援センターへ直接手渡したり、電話で伺うという事を実施する。	直ぐに取り組む
2	35	災害対策として、定期的に防災訓練を行っている。自治会との協力関係体制も築けているが、協力やアドバイスをいただける機械を増やす必要がある。	運営推進会議を通して、様々な災害を想定した対策を継続出来るよう話会う。	家族や運営推進会議メンバーの意見等も聞き、災害対策を整える。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )